

AIGジャパン(日本におけるAIGグループ)の取組み

AIGジャパンは2013年から、拠点を置く地域の自閉症啓発団体と協力して、グループ全体で自閉症や発達障がいへの啓発に取り組んでいます。昨年は社員によるボランティア活動が東京、大阪、沖縄、札幌など全国6拠点に広がり、青くライトアップされた各地のモニュメントの近くで有志社員がブルーのキャンドルの提供や啓発冊子の配布などのボランティア活動を行いました。社内では自閉症や発達障がいに対する理解の啓発の一環として、「世界自閉症啓発デー」当日に青いものを身につけて出社する取組みも行っており、昨年は全国110以上の拠点のグループ会社社員が参加しました。またAIGの海外の拠点にも呼びかけ、アジアの国々やアメリカ、グアテマラ、ギリシャのAIGオフィスがこの活動に参加するなど、グローバルでも活動の輪を広げています。

なお、グループ会社のAIG損害保険株式会社では、より多くの方の安心のために下記の保険商品を提供しています。

- 知的障害特別支援学校の生徒向けの保険(1982年より)
- 知的障害者施設等の利用者を対象とした保険(1987年より)
- 自閉症関連団体共済事業向け保険(1999年より)



有志が集まった東京オフィス社員たち



沖縄オフィスにて社員向けに自閉症セミナーを開催



グループ会社社員が青い服を着て出社(左:グアテマラ、右:長崎)



AIGグループは、世界の保険業界のリーダーであり、100以上の国や地域でお客様にサービスを提供しています。AIGグループ各社は、世界最大級のネットワークを通して個人・法人のお客様に損害保険商品・サービスを提供しています。また、米国では生命保険事業、リタイアメント・サービス事業におけるリーディングカンパニーです。持株会社 AIG, Inc. はニューヨークおよび東京の各証券取引所に上場しています。日本ではAIG損害保険株式会社、アメリカンホーム医療・損害保険株式会社、富士火災海上保険株式会社、AIG富士生命保険株式会社、ジェイアイ傷害火災保険株式会社、AIG富士インシュアランスサービス株式会社、テックマークジャパン株式会社などが事業を展開しています。



AIGジャパン・ホールディングス株式会社

所在地 〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-20 神谷町MTビル
www.aig.co.jp

AIGジャパンの取組みについて
ウェブサイトもぜひご覧ください!

www.aig.co.jp/0402/

2016.3

AIG

世界は、 4月2日が 何の日かを、 知っている。

AIGグループは、世界自閉症啓発デーをもっと知ってもらうための活動を行っています。
あなたのカレンダーにも青い印を。



イラストは、自閉症のアーティスト佐々木卓也さんの作品です。



世界自閉症啓発デーってなんだろう？

2007年の国連総会において、毎年4月2日を「世界自閉症啓発デー」とすることが決議され、この日、世界各地で啓発活動やランドマークをシンボルカラーであるブルーにライトアップするイベントなどが実施されています。日本でも、世界自閉症啓発デーの4月2日から8日を発達障害啓発週間として、シンポジウムの開催やランドマークのブルーライトアップ等の活動が行われています。

(ご参考:世界自閉症啓発デー日本実行委員会<公式サイト><http://www.worldautismawarenessday.jp/>)

AIGグループはなぜ協力しているの？

グローバル企業として世界でビジネスを展開しているAIGは、社員やビジネスパートナーからもたらされる多様な視点を大切にしています。その一環として、日本においては社員が「世界自閉症啓発デー」の活動への参加を通して自閉症や発達障がいについて理解を深め、それらの特徴を持つメンバーと一緒に最大限の力を発揮できる環境を作ることを目指しています。

知ることから始めよう ～自閉症・発達障がいとは？～



アスペルガー症候群などを含む自閉症は、生育環境や育て方により発症するものではなく、先天性の障がいです。コミュニケーションを取ることや、対人関係を構築することに困難を持つ場合がありますが、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がいなど、主な発達障がいの特徴を理解し、一人ひとりの個性や特徴に合わせて周囲が配慮することが大切です。

山岡 修 AIU損害保険株式会社 常勤監査役、日本発達障害ネットワーク元代表
AIGジャパンダイバーシティカウンスル Disability Working Group (障がい者雇用の促進)リーダー

主な障がいの特性

自閉症 (アスペルガー症候群を含む広汎性発達障がい)	「コミュニケーション」「対人関係・社会性」「パターン化した行動、こだわり」などに特性が現われる障がい。知的障がいや言葉の発達の遅れについて伴う場合と、伴わない場合がある
注意欠陥多動性障がい(AD/HD)	「集中できない(不注意)」「じっとしていられない(多動・多弁)」「考えるよりも先に動く(衝動的な行動)」などを特徴とする発達障がい
学習障がい(LD)	全般的な知的発達に遅れはないのに、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの特定の能力を学んだり、行ったりすることに著しい困難を示す様々な状態

私たち一人ひとり何ができるかな？

自閉症に加え、学習障がい(LD)や注意欠陥多動性障がい(AD/HD)等の発達障がいの可能性のある子どもが、小中学校の通常学級に6.5%程度在籍しているという調査結果(16人に1人、2012年文部科学省調査)が出ています。皆さんの職場や知り合いの家族など身近なところに発達障がいを持つ人がいるかもしれません。私たちはどんな配慮ができるか考えてみましょう。

配慮できることの例

- できたことをほめる/できないことを叱らない
- 安心できる環境を整える
- 視覚的な情報を提示して説明する
- 善悪やルールをはっきりと教える
- 説明や指示は短い文で、順を追って、具体的に
- 発達障がいの子ども(人)を温かく見守る
(政府広報オンラインより一部引用)

実践例を見てみよう!～AIGグループでの事例紹介～

AIGのグループ会社であるAIGビジネス・パートナーズ(株)では、アスペルガー症候群(自閉スペクトラム症)の障がいを持つ社員がチームの一員として活躍しています。

<上司・同僚社員の声>

2014年の11月にアスペルガー症候群の障がいを持つ社員が入社した当初はこちら側からの指示が本人にうまく伝わらず、何ごと手探りの状況が半年間ほど続きました。なぜうまく伝わらないのか、なぜできないのかと試行錯誤しているうちに、こちら側の指示の出し方があいまいで仕事の任せ方の工夫が足りなかったことに気づきました。その後、本人の個性や習熟度に合わせた作業手順を考え、指示を短い言葉で目に見えるかたちで提示し、本人向けのマニュアルや曜日ごとの時間割を作るなど一つの業務をわかりやすくする工夫をしていくと、徐々にできる仕事が増えていきました。今では貴重な戦力として活躍してもらっています。短い言葉で明確に伝えるコミュニケーション方法は、様々な言語や文化を持つ人々が身近にいることが前提になっているような国々では当たり前なことなのかもしれませんが、日本の空気を読む文化に慣れ親しんできた私たちは日々あいまいなコミュニケーションに頼っていたことに気づかされました。あいまいさをなくし、合理的な配慮をしていくことはすべての業務の改善にもつながると感じています。障がいを持った人たちに対して丁寧な指導や工夫したやり方を考えていくことは、障がいを持つ人のためだけでなく、私たちみんなの職場や社会環境づくりに役立っていくと思います。

